平成24年11月号

いやしのひととき

千代田日記

～ちよだにっき～

今月のごあいさつ

晩秋のころ 皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、弊社商品、「ゴールド積立くん®」の知名度アップ、広告宣伝を目的としてｉＰｈｏｎｅ／ｉＰａｄ用のアプリを開発し、公開しました。

「憧れのプラチナ姫と結婚したい」主人公ゴールドくんの願いをアナタが叶えるゲーム！

お城で働きながら金貨をためてゴールドくんの願いを叶えましょう

電車での移動中、ちょっとした息抜きに手軽に遊べるゲームです。ｉＰｈｏｎｅユーザーの方は、是非ダウンロードして頂き、楽しんでください。また、お知り合いの方にアプリの宣伝をしていただければと存じます。

当社はこれからもあらゆる機会、ツール、媒体を活用し、弊社の理念である金地金保有の意義を訴え、積極的に「ゴールド積立くん®」をＰＲしていく所存です。

寒さに向かう折、くれぐれもお風邪などひかれぬよう十分ご注意ください。

ご存知ですか？

街道の基点「日本橋」

「日本橋」は東京都中央区の日本橋川に架かる橋で、町名の一つでもあります。

橋梁としての「日本橋」は日本の道路網の始点となっており、現在も日本橋から国道一号(終点：大阪市)、国道四号(青森市)、国道六号(仙台市)、国道十四号(千葉市)、国道十五号(横浜市)、国道十七号(新潟市)、国道二十号(長野市)の七本が伸びています。現在の橋は十九代目の橋ですが、中央には「日本国道路元標」の文字が埋め込まれています。江戸時代初頭に五街道(東海道・日光街道・奥州街道・中山道・甲州街道)の基点となってから、江戸の中で最も賑わう場所として浮世絵等の風景画に描かれる事も多い場所です。

この地域は、古くは武蔵国豊嶋郡に当たり、その中の江戸郷前嶋村と呼ばれました。鎌倉時代の江戸氏支配の時代からこの日本橋周辺が町地として開発されていました。日本橋が架かってからは、三越の前身である越後屋をはじめとする大店が集まり、付近には金座や銀座が置かれるなど、江戸を代表する場所として栄えました。

散策も楽しいかもしれませんね。

暮らしの足し算

「目」の動きでバレている？

「目は口ほどにものを言う」と言われるとおり、目の動きはそのときの気持ちを表すそうです。

【まばたきが多い】

まばたきのペースは普通3秒に1回ほどですが、気弱になっていたり緊張状態にあったりすると回数が多くなります。相手がしきりにまばたきを始めたら緊張している証拠。または自分のまばたきが多くなったら緊張している自分を自覚して、気持ちを落ち着かせましょう。

【目と口が同時に笑い始める】

本当におかしいとき、その感情の9割は口に表れ、残り1割が目に表れるのだとか。つまり、おかしくてたまらないときはまず口から笑うのが普通なので、目と口が同時に笑い始める人は作り笑いの可能性が高いようです。

【目の動き】（右利きの場合）

左上→想像力を働かせている
右上→視覚的な記憶を呼び起こしている
左→音を想像している
右→音を思い出している
左下→におい、手触り、味などを思いだしている
右下→自分自身に語りかけている
（左ききの場合は左右が逆になる）

たとえば「今日は宿題がない」と言う子どもに「本当？」と確認します。子どもが「うん」と答えながら目が右に動いたら、先生の言葉を思いだしているので本当のこと。子どもの目が左か左上に動いたら、想像力を働かせているのでウソをついている可能性があるそうです。

幸せな人生には、2種類のメガネが必要です。
ひとつは人生の目標を、眺めるための遠メガネ。
もうひとつは日々の小さな喜びを、見落とさないための虫メガネ。

——中山庸子（エッセイスト）

じさとひみごな

この秋、初のきのこ狩りをしたSさんの失敗談です。1メートルほど先にきのこが生えているのを見つけたSさんは、嬉しくなってきのこに駆け寄りました。初めて自然のきのこを採ったSさんは大満足です。ところが、あとからやってきた友人がSさんの後ろを指して苦笑い。振り返ると、Sさんが歩いた跡には無残にも踏みつぶされたきのこの姿があったそうです。遠くのきのこしか見ていなかったSさんは足元のきのこに気づかなかったのです。

かといって足元のきのこばかりを見ていると、今度は山で迷子になります。「自分が今どのへんにいるのかを気にしながら足元にも注意する」という友人のアドバイスは、中山庸子さんの言葉に通じているとSさんは思ったそうです。

遠くばかり見ていると足元がおろそかになります。逆に足元ばかり見ていると道に迷います。遠メガネと虫メガネ。どちらもなくさないようにしたいものですね。

おいしい毎日のススメ

「暇」とは「平穏無事」なこと

道端で高校生くらいのカップルがケンカをしていました。

彼女「いつも優柔不断だよね」

彼氏「オレは慎重なんだよ」

つい笑ってしまったのは、確かにその通りだと思ったからです。なかなか決められないことを悪く言えば「優柔不断」、善く言えば「慎重」。何事も見方ひとつで善くも悪くもなるものだと、高校生カップルに教えてもらった次第です。

ネガティブな言葉でも言い方次第でポジティブな言葉に変わるというわけで、北海道の高校生が考えた「ネガポ辞典」というスマホアプリが話題になっています。ネガティブな言葉をポジティブな言葉に変換してくれるユニークなアイデアは、みんなが元気になれる「こころのアプリ」なのだとか。

たとえば「ネガポ辞典」で「つまらない」という言葉を検索すると、

①目が肥えている
本物とそうではないものを見分ける力がある。

②改善の余地がある
手を加えれば加えるほど、より良い作品にしていける。

③やりたいことができる時間がたんまりとある
暇な時間を有効活用できる。

見事なほどポジティブな表現に変換されます。この瑞々しい感性は現役高校生ならではでしょう。「フンを踏む」という運の悪さも「ネガポ辞典」にかかればこんな具合。

①運がついた
運気が上昇するきっかけ。

②靴を磨く良い機会
ただし、磨く前にまず洗おう。

③話題性に富む
早速誰かに話そう。

「暇」のポジティブ変換には人生を教えられる気さえします。

①平穏無事である
人生で一番幸せな時かもしれない。

②リラックスタイム
面白いことを見つける少し前の段階。

③余裕がある
休むことで、この時間を有意義に活用できる。

「長所と短所は表裏一体。視点を変えると、さっきまで嫌だな～と感じていた自分の性格や、残念な物体、テンションの下がった出来事なんかを、ちょっぴり好きになれるかもしれません。ネガポ辞典は、そんな考え方から生まれました。」

（「ネガポ辞典公式ブログより）

これは iphone 専用アプリですが、自分なりの「ネガポ辞典」を作ってみればいいのです。確かにものは考えよう。落ち込んだときに「ネガポ辞典」で自分を励ますと、自分では短所だと思っていたことが実は自分の魅力だと思えてくるかもしれません。

心得の教科書

三辞三譲（さんじさんじょう）

遠慮を美徳とする日本には「三辞三譲」という考え方があります。すすめられても三度は辞退して、三度は譲る心掛けをいいます。ただ現代では、三度は遠慮しすぎとなる場合が多いでしょう。一度は辞退して、二度目に受けるか断るかすると印象が良さそうです。

三辞三譲の場面は日常生活でもよく見られます。たとえば上座をすすめられたとき。すぐに申し出を受けず一度は遠慮する。お手伝いを申し出たとき、一度断られてそのまま引き下がるのではなく、もう一度伺ってみる。逆にお手伝いの申し出を受けたら一度は遠慮して、相手が「それでも」と言ってくれたらお願いする。合理的な考えの人からすると、こうしたやり取りは時間の無駄に思えるかもしれません。けれどこれが日本人の奥ゆかしさなのでしょう。

年末年始は忘年会や新年会などで人付き合いが増えます。上座をすすめられたりお酒をすすめられたりと、三辞三譲の場面も増えるでしょう。スマートに印象良く振る舞えると素敵な女性に見えそうです。

学び直しの日本語クイズ

正しい言い方はどれ？

＜1＞

【A】先生がお帰りになられました

【B】先生がお帰りになりました

【C】先生が帰られました

＜2＞

【A】社長がご覧になられました

【B】社長がご覧になりました

敬語の間違いとしてよく目にするのは、丁寧に接しようとするあまり敬語を重ねてしまう「二重敬語」です。相手が不快に思うことはありませんが、敬語を重ねても敬意が高まるわけではなく、かえってくどい印象を与えます。

＜1＞の間違いは【A】。「帰る」に「お」を付けて敬語にしているので、「なられた」という敬語を重ねる必要はありません。＜2＞の【A】も二重敬語です。「ご覧になる」は「見る」の尊敬語。そこに「なられた」が重なっています。

ただし、すべての二重敬語が間違いというわけではありません。「お召し上がりになる」や「お伺いする」は、「食べる」「聞く」を「召し上がる」「伺う」と尊敬語にした上で「お～する」が付く二重敬語ですが、すでに慣例として定着しています。

また、「お読みになっていらっしゃる」は二重敬語ではありません。「読む」→「お読みになる」、「いる」→「いらっしゃる」という具合に、それぞれ別々に尊敬語にしてつなげています。これは「敬語連結」といって許容されています。